

エピソード4

～プールを休む本当のわけ～

50代 中学校(学年主任) 男性

中1の6月に転校してきたA子は、体育のプールの授業のある日に体調不良で休むようになった。担任はプールの授業に原因があるのではないかと本人に尋ねてみるが、「泳げないから」と言うのが答えであった。

A子の様子から別の理由があると察した担任は、家庭訪問をして保護者から訳を知らされた。A子は生まれつき右足の小指が欠損しており、小学校の時は平気であったのが、そのことをこの頃急に気にし始めて、学校を休むのだということであった。

理由を体育担当の先生に伝え、プールの日には靴下をはいたままプールサイドで見学することが許可されて、体育の先生もそのことを特別気にかけないそぶりでA子と接したため、A子は登校できるようになった。

A子は2学期になり、体育大会の練習に体育の授業が切り替わると、普段通りの明るさを取り戻し、元気に体育の授業に取り組むようになった。

他の人に知られたくない秘密は、誰にだってあります。そして、知られたくない相手は友だちだったり親だったり先生だったりします。

先生が、子どもの様子が気になるとき、子どもは悩みや秘密を抱えていることが多いものです。

子どもは意識してはいませんが、ちょっとした言葉遣いや仕草の変化でSOSを発信します。先生は子どもの様子が「何か気になる」という形でそのSOSを受信しているのです。このSOSの理由をあれこれ考えること、それがカウンセリングマインドです。

しかし、問題解決にはすぐに根掘り葉掘り問いただして、秘密を暴くことが必要だと考えがちですが、本人が理由を隠していることも多いものです。また、自分でも理由がわからないことだってあります。そんなときは保護者や他の先生に情報を求めるところから始めて、しばらくは秘密は秘密のままにして子どもと接していくことも大切です。

秘密には、秘密にしなければならない理由があります。そして子どもに寄り添う中で、その理由に気づき、さりげなく解決策をアドバイスできたら、それは理想的な教育相談の姿です。大事なことは、カウンセリングマインドを持って子どもに寄り添うということです。

カウンセリングマインド……相手の気分や気持ちを理解しようと努め、相手の気持ちになって考えようとする心情